

オルフオイス I

君は豎琴をかきならし  
うたひながら歩いて行く  
春の埃をあびながら  
町の窓を見上げながら

なぐさめられる日がやつて来るのは  
近いことではないだらうか  
君がすぎ去つて行つたのだから  
キラキラと舞ひあがる光

窓にもたれて涙を流してゐる私の側で  
犬が大きなあくびをした  
憂鬱なひびきを胸に残して

残されたものはいつも悲しい  
信じながら君を見送る  
オルフオイスよ 春の埃は甘いのだらうか